

★国会議員選挙を前にしたベネズエラの政治情勢（3）＝スティーブ・エルナー

マドゥーロの作戦

マドゥーロ政権と中道派は具体的な方法でお互いを支えてきた。中道派は1月、自分たちが支配する国会について最高裁判所に法的な承認求め、承認された。これは（暫定大統領を自己宣言した）グアイドーの追随者たちが支配している並行国会に対抗するものだった。その後、最高裁は、伝統的な野党指導者が率いる政党から分裂した中道政党を承認した。見返りに中道派は、マドゥーロ政権が麻薬テロに手を染めた独裁政権であるという性格づけを明白に、あるいは暗黙のうちに否定した。

実際、国際的、国内的な圧力にあえて逆らうこの中道派の意思はまさに、3つの主張に表されている。第一に、マドゥーロ政権は麻薬国家ではなく、第二に、独裁政権でもないこと。そして第三に、それは最近採用された政策のように親ビジネス政策に移ったことだ。

この主張のいずれかでも誤りだとの説得力のある証拠ができれば、中道派の戦略は持ちこたえられないだろう。

第3の、マドゥーロの親ビジネス改革は中道派から歓迎されたが、左派及び熱烈な支持者からは批判も起こった。政府による民間部門開放の最新の例は、最近可決された「反封鎖法」であり、これにより、行政機関は、新しい所有権取り決めについて民間資本と秘密協定を結ぶことができる。この取り決めには信用と安定性を生み出ための投資保護条項が含まれるとみられる。

ベネズエラ共産党は、この取り決めについて民族の独立を支持したウーゴ・チャベスの政策を逆転させるものであり、「資本の利益への従属の政策」を合法化する企てだと非難した。フェルミンはマドゥーロ政権のこの提案をより理解し、マドゥーロ大統領がただの一社も接収しなかったと賞賛した。フェルミンはこのことをチャベスの政策に照らせば「自己批判」に相当すると主張した。

（ベネズエラが）麻薬国家だというのは誤りだとする2つ目の主張は、麻薬密売組織「ロス・ソレス・カルテル」の存在を否定することである。これは1998年にチャベスが選出されて以来、いまのマドゥーロ政権までずっと国家元首が運営してきたと米国が主張する組織だ。米司法省は今年3月まで待つマンハ

ッタンの連邦裁判所に起訴状を提出した。同日、トランプ政権はマドゥーロ大統領（逮捕）に1,500万ドルの報奨金を出した。

米国の諜報機関で数十年の勤務経験があるフルトン・アームストロングは、「ロス・ソレス・カルテルがあると言う真面目なアナリストは米政府以外に一人も知らない」と述べている。

独裁支配についての2番目の主張も同様にこじつけだが、敵対者に対するマドゥーロ政権の強硬路線を問題にする。たとえば、伝統的な野党指導者ではなく中道派主導の諸党を承認するという決定は、荒っぽいやり方のように見える。マドゥーロの擁護者は、これらの指導者が少なくとも一時は、外国の介入を積極的に支持し、暴力的な政権転換行動を支援するなど自ら法の枠外に身を投じ、民主的権利を失ったと応じるかもしれない。しかしこの議論は、「みんなの祖国党(PPT)」や「ツパマロス」などの左派政党には適用できない。彼らは、与党の大祖国戦線(PPT)を(共産党とともに)離れた後、法的な承認を失い、分割組織の一員になった。同時に、与党、ベネズエラ社会主義統一党(PSUV)のカラカス市長はPPTのラファエル・ウスカテギ書記長の道徳にかかわる行為に関して虚偽の告発を行った。

政府に対する批判は、最高裁判所が特定の政党を承認するが、他の政党を承認しないとか、違法性や民主主義の規範の侵犯を指摘する。しかし、ほとんどの批判は、(選挙での)投票が正しくカウントされていないというものだが、その説得力のある具体的な証拠を提示することはめったにない。これは政府を独裁政権と規定するために不可欠な要素なのに。2013年と2018年の2回の大統領選挙の場合のように、不正選挙はしばしば違法性と混同されている。野党が繰り返し行っているように、マドゥーロ大統領に「政権篡奪者」とのレッテル張りをするのは、両方の選挙で不正選挙が行われたとの推定を前提としている。

非常に尊敬されている世論調査機関の運営者で野党支持者のルイス・ビセンテ・レオンは、民主主義の本質は「すべての関係者に同じ条件を提供し、仲裁人は公平でなければならず、公的資源は誰のためにも使われない」ことだと強調している。レオンは、この黄金のルールが侵されたというのは間違いではないにせよ、これはベネズエラの民主主義が始まって以来、常に多かれ少なかれ侵されてきたことなのだと適切に述べている。

カルロス・ロンは、少なくとも1つの点で、選挙戦は野党に有利に働いていると

指摘している。「有権者は、与党 PSUV を再選すれば制裁措置が続き、野党が政権に復帰すれば直ちに解除されることを十分に知っている」からだ。12 月の国会議員選挙では、この 1 つの要因だけでも、多くの票を揺るがす可能性がある。

(了)

◇スティーブ・エルナー＝元ベネズエラ・オリエンテ大学教授。「ラテンアメリカ展望」誌副編集長。

◇原文・米左派雑誌「ジャコバン・マガジン」10 月 26 日 (翻訳 田中靖宏)